
体系基礎英文法

総復習テキスト

第0講～第53講(全54講)

この無料抜粋版について

収録内容

第17講 名詞を修飾する分詞(句)

第18講 目的格補語になる分詞

第19講 分詞構文

第21講 関係代名詞 what の用法

第23講～第28講 関係詞(関係代名詞・関係副詞・非制限用法など)

目次のページ番号について

目次は完全版(全54講)のものをそのまま掲載しています。

ページ番号は完全版の番号のため、この抜粋版のページとは一致しません。

完全版について

完全版『体系基礎英文法 総復習テキスト』は第0講～第53講の全54講を収録しています。

2,980円(税込)。お申し込みは下記サイトから。

<https://www.eiken-toeic-toefl.com/>

目次

第1部 文の骨組み

第0講 5文型とその特定・区別	6
-----------------	---

第2部 名詞・代名詞・冠詞・形容詞・副詞・前置詞

第1講 名詞の用法(Nouns: 可算/不可算名詞, a piece of ~)	14
第2講 代名詞の用法(Pronouns: 人称・所有・再帰・不定代名詞)	19
第3講 冠詞の用法(Articles: a/an, the, 無冠詞)	24
第4講 形容詞の用法(Adjectives: 限定用法・叙述用法, many/much, a few/a little)	29
第5講 副詞の用法(Adverbs: 位置のルール, 頻度副詞, hard/hardly)	34
第6講 前置詞の基本用法(時・場所を表すat/in/on)	39

第3部 準動詞(不定詞・動名詞・分詞)

第7講 不定詞の名詞用法(主語・補語・目的語になるto do)	44
第8講 不定詞の形容詞用法(名詞を後ろから修飾するto do)	49
第9講 不定詞の副詞用法(目的・感情の原因・判断の根拠など)	54
第10講 結果を表す不定詞の重要表現(only to do/live to be など)	59
第11講 原形不定詞をとる知覚動詞・使役動詞	63
第12講 be動詞+to doの用法(予定・可能・義務・意図・運命)	67
第13講 動名詞の基本用法(主語・補語・目的語になるdoing)	71
第14講 動名詞を目的語にとる動詞と不定詞を目的語にとる動詞	76
第15講 目的語が動名詞と不定詞で意味が変わる動詞	81
第16講 動名詞の重要構文・慣用表現(cannot help doing, It's no use doingなど)	85
第17講 名詞を修飾する分詞(句)(現在分詞と過去分詞の使い分け)	90

第18講 目的格補語になる分詞 (find O doing/done など)	95
第19講 分詞構文 (時・理由・付帯状況・条件・譲歩)	99

第4部 名詞節

第20講 名詞節を導くthatとwhat／同格のthat節	103
第21講 関係代名詞whatの用法	108
第22講 間接疑問文 (疑問詞が導く名詞節)	112

第5部 形容詞節 (関係詞)

第23講 関係代名詞の基礎 (定義・種類・格変化)	118
第24講 複合関係代名詞の用法 (whoever・whatever・whichever)	122
第25講 連鎖関係代名詞節と〈名詞＋前置詞＋whom/which to do〉	126
第26講 前置詞＋関係代名詞と関係副詞	130
第27講 関係詞の非制限用法と訳し方	134
第28講 関係詞の言い換え表現 (the way／the reason)	138

第6部 副詞節 (接続詞・前置詞)

第29講 時を表す接続詞 (time構文・the moment など)	143
第30講 理由を表す接続詞・前置詞 (because／since／as／for／because of／due to)	148
第31講 譲歩を表す接続詞・前置詞 (although／though／despite／in spite of)	153
第32講 条件・結果を表す表現 (unless／so...that／by と until の区別)	157
第33講 文脈で意味が変わる接続詞の用法 (as)	162
第34講 時間の制限から条件への転用 (as long as)	166
第35講 範囲と時間の制限を区別する表現 (as far as／as long as)	170

第7部 時制・態・仮定法

第36講 未来表現(will／be going to／現在進行形による未来)	174
第37講 現在完了形(Present Perfect)	179
第38講 過去完了形(Past Perfect: had done)	185
第39講 受動態(Passive Voice)	190
第40講 受動態の応用(get done／have[get] O done)	196
第41講 仮定法過去(Subjunctive Past)	201
第42講 仮定法過去完了(Subjunctive Past Perfect)	207
第43講 仮定法の重要構文(I wish／as if／It's time thatなど)	213

第8部 比較・特殊構文

第44講 比較級・最上級(Comparative and Superlative)	218
第45講 強調構文(Cleft Sentence)	223
第46講 倒置構文(Inversion)	229
第47講 話法の転換(Reported Speech)	235

第9部 動詞の語法・助動詞

第48講 助動詞の用法(can/may/must/should の意味と書き換え)	241
第49講 文型で意味が変わる動詞の語法①(remind型)	246
第50講 不定詞を目的格補語にとる動詞の語法(SVO to do)	250
第51講 文型で意味が変わる動詞の語法②(expect・persuade・require型)	254
第52講 命令・要求・提案を表す動詞に続くthat節の語法	258
第53講 前置詞パターンをとる動詞の語法	262

はじめに

本書は、一般的な文法学習の順序(文の骨組み→名詞・代名詞・冠詞・形容詞・副詞・前置詞→準動詞→名詞節→形容詞節→副詞節→時制・態・仮定法→比較・特殊構文→動詞の語法・助動詞)に沿って編成した総復習テキストです。各講は概念説明・実戦演習問題・構造解説つき解答の3部構成になっており、独習でも講義形式のように学習できるよう作られています。

本書の構成(全9部・54講)

1. 文の骨組み:5文型
2. 名詞・代名詞・冠詞・形容詞・副詞・前置詞:可算/不可算名詞、代名詞、a/an/the、数量形容詞、頻度副詞、時・場所の前置詞
3. 準動詞:不定詞・動名詞・分詞
4. 名詞節:that/what節、関係代名詞what、疑問詞が導く名詞節(間接疑問文)
5. 形容詞節(関係詞):関係代名詞、関係副詞、複合・連鎖関係詞
6. 副詞節(接続詞・前置詞):time表現、as、理由・譲歩・条件・結果、by/untilの区別
7. 時制・態・仮定法:未来表現、現在完了形、過去完了形、受動態とその応用、仮定法過去・過去完了、仮定法の重要構文
8. 比較・特殊構文:比較級・最上級、強調構文、倒置構文、話法の転換
9. 動詞の語法・助動詞:remind・SVO to do・前置詞パターン・助動詞など

第17講 名詞を修飾する分詞(句)(Participle as Adjective: 現在分詞と過去分詞の使い分け)

品詞マップ: 形容詞相当語句(名詞にかかる)

1. 文構造チェック

分詞には現在分詞doingと過去分詞doneの2種類があり、形容詞と同じように名詞を修飾する。修飾される名詞と分詞の意味関係で使い分ける。

能動関係「〈名詞が〉...する/...している」→ 現在分詞doing
the boy playing soccer in the park
[名詞: the boy] ← [現在分詞句: playing soccer in the park]
→ the boy plays soccer「その少年がサッカーをする」という能動関係。

受動関係「〈名詞が〉...される/...された」→ 過去分詞done
a letter written in English
[名詞: a letter] ← [過去分詞句: written in English]
→ a letter is written「その手紙が書かれる」という受動関係。

語順のルール: 分詞が単独なら名詞の前(doinɡ/done+名詞)。他の語句を伴うなら名詞の後ろ(名詞+doinɡ.../done...)。

▲注意: 自動詞の過去分詞は「完了」を表すことがある。fallen leaves「落ちてしまった葉＝落ち葉」

2. 実戦演習問題

問1 The man () a huge suitcase asked me for directions to the station.

- ① carry
- ② carrying
- ③ carried
- ④ to carrying

問2 Anyone wishing to join the club should contact the office by Friday.

- ① (現在分詞: 名詞修飾)
- ② (不定詞: 名詞修飾)
- ③ (動名詞: 主語)
- ④ (過去分詞: 名詞修飾)

問3 The number of students () English as a second language has increased.

- ① study
- ② studying
- ③ studied
- ④ to study

問4 Please throw away any () vegetables in the fridge.

- ① rot
- ② rotting
- ③ rotted
- ④ rots

問5 The bridge () over a century ago is still in use today.

- ① building
- ② built
- ③ build
- ④ builds

3. 解答と構造解説&講義注釈

品詞マップ: 形容詞相当語句(名詞にかかる)

問1 正解: ② carrying

文構造: [S: The man carrying a huge suitcase] [V: asked] [O: me] [for directions to the station] 解説: manとcarryは「その男性が大きなスーツケースを運んでいる」という能動関係なので現在分詞。a huge suitcaseという語句を伴うため名詞manの後ろに置かれている(単独ならThe carrying manのように前置)。「大きなスーツケースを運んでいたその男性は、私に駅への道を尋ねた」。

問2 正解: ① (現在分詞: 名詞修飾)

wishing to joinはAnyoneを後ろから修飾する現在分詞句(=Anyone who wishes to joinの書き換え)。不定詞の形容詞用法(anyone to contact「連絡すべき人」と同じく名詞を後ろから修飾するが、分詞は「今その状態にある」ことを表し、関係代名詞節への書き換えができる点が特徴。

問3 正解: ② studying

studentsとstudyの間には「学生が英語を学んでいる」という能動関係が成り立つため、現在分詞studyingが正解(=students who are studying)。不定詞の形容詞用法(students to study「学ぶべき学生」とは意味が異なる点に注意。

問4 正解: ② rotting

文構造: [V: throw away] [O: any rotting vegetables in the fridge] 解説: vegetablesとrot(腐る、自動詞)は「野菜が腐っている(進行中)」という能動関係なので現在分詞。rotted(過去分詞)は他動詞的な受動の意味合いになり不自然。「冷蔵庫の中で腐りかけている野菜は捨ててください」。

問5 正解: ② built

文構造: [S: The bridge built over a century ago] [V: is] [C: still in use today] 解説: bridgeとbuild(建てる、他動詞)は「橋が建てられた」という受動関係なので過去分詞。

over a century agoという語句を伴うため名詞bridgeの後ろに置かれている。「1世紀以上前に建てられたその橋は、今日も使われている」。

復習チェックリスト

- ☐ 分詞と修飾される名詞の能動・受動関係を見分けられるか？
- ☐ 分詞が単独か語句を伴うかで前置・後置が決まることを説明できるか？

品詞連関図

品詞の働き（統語機能）における位置づけ

- NP（名詞相当語句） — S・O・C・前置詞の目的語になる
不定詞〈名詞用法〉／動名詞〈基本用法〉／動名詞の慣用表現 他3項目
- AdjP（形容詞相当語句） — 名詞を修飾（限定用法） ★
 - ・不定詞〈形容詞用法〉（第8講）
 - ★ 現在分詞・過去分詞（名詞修飾）（第17講） 今ここ
 - ・関係代名詞〈基礎〉（第23講）
 - ・複合関係代名詞（第24講）
 - ・連鎖関係代名詞節（第25講）
 - ・前置詞+関係代名詞／関係副詞（第26講）
 - ・関係詞の非制限用法（第27講）
 - ・関係詞の言い換え（第28講）
- AdvP（副詞相当語句） — 動詞・形容詞・文全体を修飾
不定詞〈副詞用法〉／不定詞の結果用法／分詞構文 他7項目
- VP（動詞句の体系） — 時制・態・法
be to do（未来・予定）／未来表現／現在完了形 他7項目
- POS（品詞基礎） — 文を構成する基本単位
名詞／代名詞／冠詞 他3項目
- SPECIAL（統語操作・個別語法） — 特定の構文・動詞に紐づく運用規則
文型体系そのもの／知覚・使役動詞のSVOC／動名詞／不定詞（目的語選択） 他11項目

第18講 目的格補語になる分詞 (find O doing/done など)

品詞マップ: 目的格補語(C)になる

1. 文構造チェック

SVOCのC(目的格補語)の位置に分詞がくることがある。OとCの意味関係で現在分詞と過去分詞を使い分ける点は、名詞修飾の分詞と同じ考え方。

(1) 能動関係「Oが...する/...している」→ SVO doing

I found him sleeping on the sofa.

[S: I] [V: found] [O: him] [C: sleeping on the sofa]

→ he is sleeping「彼が眠っている」という能動関係。

(2) 受動関係「Oが...される/...された」→ SVO done

I found him surrounded by kids.

[S: I] [V: found] [O: him] [C: surrounded by kids]

→ he is surrounded「彼が囲まれている」という受動関係。

SVO doing/doneの形をよく作る動詞: find, keep, leave など。

講義ポイント① find, keep, leaveなどはCの位置に分詞 (doing/done) を取るが、第11講で学んだ知覚動詞・使役動詞はCの位置に原形不定詞を取る。この違いは動詞の意味の違いに由来する。「Oを(その状態のまま)見つける・保つ・放置する」というfind/keep/leave型は分詞、「Oに～させる／～するのを見る」という使役・知覚型は原形不定詞、と動詞のグループごとに整理して覚えること。

2. 実戦演習問題

問1 I want this letter () by tomorrow morning without fail.

- ① send
- ② to send
- ③ sent
- ④ sending

問2 Please have your homework () before you leave the classroom.

- ① finish
- ② to finish
- ③ finished
- ④ finishing

問3 She left the engine () while she ran into the store.

- ① run
- ② ran
- ③ running
- ④ runs

問4 I found the front door () when I got home last night.

- ① lock
- ② locking
- ③ locked
- ④ to lock

問5 Please keep the windows () while the paint dries.

- ① open
- ② opening
- ③ opened
- ④ to open

3. 解答と構造解説&講義注釈

品詞マップ: 目的格補語(C)になる

問1 正解: ③ sent

want+O+C(過去分詞)「Oが～される状態を望む」の形。this letter(O)とsend(動詞)の間には「手紙が送られる」という受動関係が成り立つため過去分詞sentが正解。第18講で学んだfind O doing/doneと同じ、目的語と補語の意味関係で判別するSVOC構文。

問2 正解: ③ finished

have+O+過去分詞「Oを～し終える／Oを～してもらう」の形。your homework(O)とfinish(動詞)の間には「宿題が終えられる」という受動関係が成り立つため過去分詞finishedが正解。原形不定詞をとる使役動詞のパターン(have+O+原形:Oに～させる)と、この過去分詞パターンの違いを、目的語との能動・受動関係で判別する。

問3 正解: ③ running

engineとrun(作動する、自動詞)は「エンジンがかかっている(作動している)」という能動関係なので現在分詞。「彼女はお店に駆け込む間、エンジンをかけたままにしておいた」。

問4 正解: ③ locked

doorとlockは「ドアが施錠された」という受動関係なので過去分詞。「昨夜家に帰ったとき、玄関のドアが施錠されているのに気づいた」。

問5 正解: ③ opened

windowsとopenは「窓が開けられた状態にある」という受動関係(窓自体が「開ける」動作をするわけではない)。「ペンキが乾く間、窓は開けたままにしておいてください」。

復習チェックリスト

- ☐ SVOCのCに分詞が入るとき、OとCの能動・受動関係で使い分けられるか？
- ☐ find, keep, leaveなどSVO doing/doneをよく作る動詞を挙げられるか？

品詞連関図

品詞の働き（統語機能）における位置づけ

- NP（名詞相当語句） — S・O・C・前置詞の目的語になる
不定詞〈名詞用法〉／動名詞〈基本用法〉／動名詞の慣用表現 他3項目
- AdjP（形容詞相当語句） — 名詞を修飾（限定用法）
不定詞〈形容詞用法〉／現在分詞・過去分詞（名詞修飾）／関係代名詞〈基礎〉 他5項目
- AdvP（副詞相当語句） — 動詞・形容詞・文全体を修飾
不定詞〈副詞用法〉／不定詞の結果用法／分詞構文 他7項目
- VP（動詞句の体系） — 時制・態・法
be to do（未来・予定）／未来表現／現在完了形 他7項目
- POS（品詞基礎） — 文を構成する基本単位
名詞／代名詞／冠詞 他3項目
- SPECIAL（統語操作・個別語法） — 特定の構文・動詞に紐づく運用規則 ★**
 - ・文型体系そのもの（第0講）
 - ・知覚・使役動詞のSVOC（第11講）
 - ・動名詞/不定詞（目的語選択）（第14講）
 - ・動名詞/不定詞（意味変化）（第15講）
 - ★ 分詞のSVOC（第18講） 今ここ
 - ・比較級・最上級（第44講）
 - ・強調構文（第45講）
 - ・倒置構文（第46講）
 - ・話法の転換（第47講）
 - ・remind型（文型操作）（第49講）
 - ・SVO to do（第50講）
 - ・expect/persuade/require型（第51講）
 - ・命令・要求・提案のthat節（第52講）
 - ・前置詞パターン動詞（第53講）

第19講 分詞構文(Participial Construction: 時・理由・付帯状況・条件・譲歩)

品詞マップ: 副詞相当語句(動詞・文全体にかかる)

1. 文構造チェック

分詞が導く句が文全体(の述語動詞)を修飾するものを分詞構文と呼ぶ。原則として分詞で表す。文頭・文中・文末のどこにでも置ける。

意味は主に5つ:

- (1) 時「～するとき」 Walking along the street, I met an old friend.
- (2) 理由「～なので」 Feeling tired, she went to bed early.
- (3) 付帯状況「～しながら/そして～する」 He entered the room, smiling brightly.
- (4) 条件「もし～すれば」 Turning left, you will find the store.
- (5) 譲歩「～ではあるが」 Admitting his fault, he still refused to apologize.

構造の型:

Feeling tired, she went to bed.

[分詞構文: Feeling tired], [S: she] [V: went] [to bed]

→ 分詞構文の意味上の主語は、修飾する主節の主語Sと一致するのが原則(sheがfeel tiredしている)。

受動の分詞構文(過去分詞から始まる形):

Seen from another angle, the sculpture looks different.

[分詞構文: Seen from another angle], [S: the sculpture] [V: looks] [C: different]

→ the sculpture is seen「その彫刻が見られる」という受動関係なので過去分詞から始まる。

2. 実戦演習問題

問1 () tired after the long flight, Kanako went straight to bed.

- ① Feel
- ② Feeling
- ③ Felt
- ④ To feel

問2 Taku walked into the office, () a cup of coffee in each hand.

- ① hold
- ② held
- ③ holding
- ④ to hold

問3 () by the sudden noise, the birds flew away from the tree all at once.

- ① Startle
- ② Startling
- ③ Startled
- ④ To startle

問4 She wants to work abroad, ideally in a country where English is spoken.

- ① (不定詞: 名詞用法)
- ② (不定詞: 形容詞用法)
- ③ (不定詞: 副詞用法)
- ④ (分詞構文)

問5 () enough money, they decided to postpone the trip.

- ① Not having
- ② Having not
- ③ Not to have
- ④ Not have

3. 解答と構造解説 & 講義注釈

品詞マップ: 副詞相当語句(動詞・文全体にかかる)

問1 正解: ② Feeling

分詞構文の意味上の主語はKanako。Kanakoがfeel tiredしているという能動関係なので現在分詞。理由「疲れを感じたので」を表す。「長時間のフライトの後で疲れを感じたので、カナコはまっすぐベッドに向かった」。

問2 正解: ③ holding

この分詞構文の意味上の主語もTaku。Takuがコーヒーを持っているという能動関係なので現在分詞。付帯状況「～しながら」を表し、文末に置かれている。「タクは両手にコーヒーを持ちながら、オフィスに入っていった」。

問3 正解: ③ Startled

文頭の分詞構文で、the birds(意味上の主語)とstartle(動詞)の間には「鳥たちが驚かされる」という受動関係が成り立つため、過去分詞Startledが正解(=Because the birds were startled...)。分詞構文は能動なら現在分詞、受動なら過去分詞から始める点が、第17・18講の分詞の判別法と共通する。

問4 正解: ① (不定詞: 名詞用法)

to work abroadはwantsの目的語(O)になる不定詞の名詞用法。分詞構文は主節の主語と分詞の意味上の主語が一致し、副詞的に主節を修飾するのに対し、不定詞の名詞用法はS・O・Cの位置に入る点が根本的に異なる。文中での「働き(役割)」を見て判別することが重要。

問5 正解: ① Not having

分詞構文を否定する場合はNotを分詞の直前に置く(Having not enoughは誤り)。理由「十分なお金がなかったので」を表す。「十分なお金がなかったので、彼らは旅行を延期することにした」。

復習チェックリスト

- ☐ 分詞構文の意味上の主語が主節の主語と一致することを説明できるか？
- ☐ 分詞構文の否定はNotを分詞の直前に置くことを説明できるか？

品詞連関図

品詞の働き（統語機能）における位置づけ

- └ NP（名詞相当語句） — S・O・C・前置詞の目的語になる
不定詞〈名詞用法〉／動名詞〈基本用法〉／動名詞の慣用表現 他3項目
- └ AdjP（形容詞相当語句） — 名詞を修飾（限定用法）
不定詞〈形容詞用法〉／現在分詞・過去分詞（名詞修飾）／関係代名詞〈基礎〉 他5項目
- └ AdvP（副詞相当語句） — 動詞・形容詞・文全体を修飾 ★
 - ・不定詞〈副詞用法〉（第9講）
 - ・不定詞の結果用法（第10講）
 - ★ 分詞構文（第19講） 今ここ
 - ・時の接続詞（time構文）（第29講）
 - ・理由の接続詞・前置詞（第30講）
 - ・譲歩の接続詞・前置詞（第31講）
 - ・条件・結果の表現（第32講）
 - ・as の多義性（第33講）
 - ・as long as（条件への転用）（第34講）
 - ・as far as/as long as（第35講）
- └ VP（動詞句の体系） — 時制・態・法
be to do（未来・予定）／未来表現／現在完了形 他7項目
- └ POS（品詞基礎） — 文を構成する基本単位
名詞／代名詞／冠詞 他3項目
- └ SPECIAL（統語操作・個別語法） — 特定の構文・動詞に紐づく運用規則
文型体系そのもの／知覚・使役動詞のSVOC／動名詞／不定詞（目的語選択） 他11項目

第21講 関係代名詞 what の用法

品詞マップ: 名詞相当語句(S・O・Cになる)

1. 関係代名詞 what の基本用法

関係代名詞 what は the thing(s) which に相当する表現で、「...すること[もの]」という意味になる。先行詞なしで使うことに注意。

- (1) what は、what が導く名詞節(=what節)内で主語、補語、他動詞の目的語、前置詞の目的語となる。
- (2) what が導く名詞節は、文全体の中で主語、補語、他動詞の目的語、前置詞の目的語となる。what節が主語になる場合は三人称単数扱いをするのが原則。

What she achieved in just three years surprised everyone in the company.

(彼女がわずか3年で成し遂げたことは、会社中の誰をも驚かせた)

→ What she achieved in just three years が文全体の主語(三人称単数扱い)。

what節内では achieved の目的語になっている。

*注意: (節内でのwhatの働き)と(文全体でのwhat節の働き)の両方を常にきちんと考えること。

2. 差がつく！重要識別ポイント

- (1) what節が主語になるときの動詞の一致

what節全体を1つのまとまり(単数)として扱うため、動詞は三人称単数形になる。

- (2) which との違い

which は先行詞を必要とする関係代名詞(先行詞+which+不完全文)。what は先行詞を必要としない(=the thing(s) whichの意味をすでに含んでいる)ため、(×) the thing what のように先行詞と一緒に使うことはできない。

3. 実戦演習問題

問1 () he wrote in his final report was completely different from what he had said in the meeting.

- ① That
- ② What
- ③ Which
- ④ Whom

問2 () surprised me most was how calm she remained during the crisis.

- ① That
- ② What
- ③ Which
- ④ It

問3 I couldn't understand () he was trying to say in his confusing explanation.

- ① that
- ② what
- ③ if
- ④ because

問4 You should focus on () really matters instead of worrying about minor mistakes.

- ① that
- ② which
- ③ what
- ④ whose

問5 () makes this restaurant special is the chef's attention to every small detail.

- ① That
- ② Which
- ③ What
- ④ Whom

4. 解答と構造解説 & 講義注釈

品詞マップ: 名詞相当語句(S・O・Cになる)

問1 正解: ② What

文全体の主語となる名詞節。he wrote の目的語が欠けた不完全文が続いているため、先行詞なしで使える what が正解。

問2 正解: ② What

空欄は文全体の主語(S)になる名詞節を導く必要があり、空欄の直後には動詞 surprisedが続くため主語が欠けた不完全文。関係代名詞whatが「～すること・もの」という意味で主語の役割を兼ねる。接続詞thatは後ろに完全文が必要なため、主語が欠けている場合は使えない。

問3 正解: ② what

he was trying to say()は、say の目的語が欠けた不完全文。目的語が欠けている文を導けるのは関係代名詞whatであり、接続詞that(完全文が必要)ではこの構造を作れない。

問4 正解: ③ what

前置詞 on の目的語となる名詞節。先行詞がなく「本当に重要なこと」という意味を作るため what が正解。

問5 正解: ③ What

文全体の主語となる名詞節を作る。先行詞がないため that や which ではなく what が正解。makes と三人称単数形になっている点も一致。

復習チェックリスト

- ☐ what節が「節内での働き」と「文全体での働き」の両方を持つことを説明できるか？
- ☐ what節が主語になるとき動詞が三人称単数扱いになることを説明できるか？
- ☐ what と which の違い(先行詞の有無)を言えるか？

品詞連関図

品詞の働き（統語機能）における位置づけ

- └ NP（名詞相当語句） — S・O・C・前置詞の目的語になる ★
 - ・不定詞〈名詞用法〉（第7講）
 - ・動名詞〈基本用法〉（第13講）
 - ・動名詞の慣用表現（第16講）
 - ・that節／what節（第20講）
 - ★ 関係代名詞what（第21講） 今ここ
 - ・間接疑問文（第22講）
- └ AdjP（形容詞相当語句） — 名詞を修飾（限定用法）
不定詞〈形容詞用法〉／現在分詞・過去分詞（名詞修飾）／関係代名詞〈基礎〉 他5項目
- └ AdvP（副詞相当語句） — 動詞・形容詞・文全体を修飾
不定詞〈副詞用法〉／不定詞の結果用法／分詞構文 他7項目
- └ VP（動詞句の体系） — 時制・態・法
be to do（未来・予定）／未来表現／現在完了形 他7項目
- └ POS（品詞基礎） — 文を構成する基本単位
名詞／代名詞／冠詞 他3項目
- └ SPECIAL（統語操作・個別語法） — 特定の構文・動詞に紐づく運用規則
文型体系そのもの／知覚・使役動詞のSVOC／動名詞／不定詞（目的語選択） 他11項目

第23講 関係代名詞の基礎(Relative Pronouns: 定義・種類・格変化)

品詞マップ: 形容詞相当語句(先行詞の名詞にかかる)

1. 関係代名詞とは

関係代名詞は、名詞と(名詞の働きをする語句が1つだけ欠けた)文をつなげる働きをする。〈名詞＋関係代名詞＋文...〉という語順になり、この〈名詞〉を「先行詞」、〈関係代名詞＋文...〉を「関係代名詞節(＝関係詞節)」と呼ぶ。

She is a teacher who inspires her students. (彼女は生徒たちを奮い立たせる先生だ)

先行詞(名詞): a teacher

関係代名詞節: who inspires her students

関係代名詞の後ろには、名詞要素が1つ欠けた「不完全な文」が続く。上の例では、“() inspires her students” のように主語が欠けている。

2. 関係代名詞の種類と格変化

関係代名詞が関係詞節の中で主語の働きをするときは「主格」、目的語の働きをするときは「目的格」、所有格の代名詞の働きをするときは「所有格」と呼ばれる。

先行詞＼格	主格	目的格(省略可)	所有格
人	who / that	who(m) / that	whose
人以外	which / that	which / that	whose

- (1) 主格・目的格では who, whom, which の代わりに関係代名詞 that が使える。所有格の whose の代わりに that は使えない。
- (2) 目的格の whom の代わりに、話し言葉ではしばしば who が使われる。
- (3) 目的格の関係代名詞はよく省略される。主格と所有格は省略できない。
- (4) 「人以外」の先行詞にも、所有格の関係代名詞は whose を用いる。whose を用いる場合は必ず〈先行詞＋whose＋名詞〉という語順になる。

3. 実戦演習問題

問1 The photographer () work was exhibited last month has won several international awards.

- ① who
- ② whose
- ③ whom
- ④ which

問2 I finally met the author () novel had won several international awards.

- ① who
- ② whom
- ③ whose
- ④ that

問3 The company () products are known for their durability has expanded overseas.

- ① who
- ② whose
- ③ which
- ④ whom

問4 The volunteers () helped clean up the beach were mostly local students.

- ① who
- ② whom
- ③ whose
- ④ which

問5 This is the very place () we first met each other ten years ago.

- ① which
- ② where
- ③ when
- ④ what

4. 解答と構造解説 & 講義注釈

品詞マップ: 形容詞相当語句(先行詞の名詞にかかる)

問1 正解: ② whose

先行詞the photographerの「作品(work)」という所有関係を表すため、所有格の関係代名詞whoseが正解。whose worksで「その写真家の作品」という意味のまとまりを作り、後ろに名詞が続く語順になる点が、主格who・目的格whomとの識別ポイント。

問2 正解: ③ whose

先行詞 the author が novel の持ち主。〈先行詞＋whose＋名詞〉の形。

問3 正解: ② whose

先行詞 The company が、後ろの節の中で products を所有する関係にある(The company's products)。所有格の関係代名詞 whose ＋ 名詞 の語順が正しい。

問4 正解: ① who

先行詞 The volunteers(人)が、後ろの節“() helped clean up the beach”の主語になっている。主格の who が正しい。

問5 正解: ② where

先行詞the placeを修飾し、後ろのwe first met each other ten years agoが完全文(欠けている要素がない)であることから、関係代名詞ではなく関係副詞whereが正解。関係代名詞(後ろが不完全文)と関係副詞(後ろが完全文)の判別は、形容詞節を作る際の最重要ポイント。

復習チェックリスト

- ☐ 関係代名詞の後ろには「名詞要素が1つ欠けた不完全な文」が続くことを説明できるか？
- ☐ 主格・目的格・所有格の使い分けを先行詞(人／人以外)ごとに言えるか？

品詞連関図

品詞の働き（統語機能）における位置づけ

- NP（名詞相当語句） — S・O・C・前置詞の目的語になる
不定詞〈名詞用法〉／動名詞〈基本用法〉／動名詞の慣用表現 他3項目
- AdjP（形容詞相当語句） — 名詞を修飾（限定用法） ★
 - ・不定詞〈形容詞用法〉（第8講）
 - ・現在分詞・過去分詞（名詞修飾）（第17講）
 - ★ 関係代名詞〈基礎〉（第23講） 今ここ
 - ・複合関係代名詞（第24講）
 - ・連鎖関係代名詞節（第25講）
 - ・前置詞+関係代名詞／関係副詞（第26講）
 - ・関係詞の非制限用法（第27講）
 - ・関係詞の言い換え（第28講）
- AdvP（副詞相当語句） — 動詞・形容詞・文全体を修飾
不定詞〈副詞用法〉／不定詞の結果用法／分詞構文 他7項目
- VP（動詞句の体系） — 時制・態・法
be to do（未来・予定）／未来表現／現在完了形 他7項目
- POS（品詞基礎） — 文を構成する基本単位
名詞／代名詞／冠詞 他3項目
- SPECIAL（統語操作・個別語法） — 特定の構文・動詞に紐づく運用規則
文型体系そのもの／知覚・使役動詞のSVOC／動名詞／不定詞（目的語選択） 他11項目

第24講 複合関係代名詞の用法(whoever・whatever・whichever)

品詞マップ: 名詞節(S・O・C)／副詞節(譲歩)になる

1. 複合関係代名詞の基本構造

whoever, whatever, whichever は、疑問詞(who/what/which)に -ever がついた形で、名詞節(「...する人・もの・こと」)または譲歩の副詞節(「たとえ...でも」)を作る。

「元の文 → 節への変形」で理解する。

(1) S wants it.「Sがそれをほしい」(文)

(2) who wants it「だれがそれをほしいか(ということ)」(名詞節) ⇨ (1)のSをwhoに変形

(3) whoever wants it「だれでもそれをほしい人」(名詞節) ⇨ (2)のwhoにeverをつける

*(2)と(3)は名詞節なので、文全体の主語・目的語・補語として使われる。

2. 差がつく！重要識別ポイント

(1)「節内での働き」と「文全体での働き」を分けて考える

whoever/whatever/whichever そのものは節内で主語・目的語・補語になり、それが導く節全体は文全体の主語・目的語・補語になる(二重の構造)。

(2) whomever の扱い

目的格 whomever は現代英語では whoever で代用されることが非常に多い(口語・カジュアルな文章では特に)。

(3) 譲歩の副詞節との違い

〈whatever＋名詞＋SV〉「たとえどんな～でも」の形は副詞節。名詞節との違いは、文中でどの要素(S/O/C)として働いているかで判断する。

3. 実戦演習問題

問1 Please give this document to () is in charge of the accounting department.

- ① whoever
- ② whomever
- ③ whichever
- ④ whose

問2 () decision the committee makes, the new policy will affect thousands of employees.

- ① Whichever
- ② Whoever
- ③ However
- ④ Whatever

問3 You can invite () you like to the party; there's no restriction on the number of guests.

- ① whoever
- ② whomever
- ③ whose
- ④ who

問4 () you choose to major in, make sure it genuinely interests you.

- ①Whoever
- ②Whatever
- ③However
- ④Whichever place

問5 You may invite () you think would enjoy this kind of music.

- ①whoever
- ②whomever
- ③whatever
- ④however

4. 解答と構造解説 & 講義注釈

品詞マップ: 名詞節(S・O・C) / 副詞節(譲歩)になる

問1 正解: ① whoever

前置詞 to の目的語となる名詞節全体を作るのは whoever。ただし節内では is in charge of の主語になっているため、主格の whoever が正しく whomever は不可。

問2 正解: ④ Whatever

Whatever decision the committee makes「委員会がどんな決定を下そうとも」という譲歩の副詞節。〈名詞+ever+SV〉の形。

問3 正解: ① whoever(文法的には②whomeverも可)

invite の目的語となる名詞節。節内では invite の目的語であるため本来は whomever が正しいが、現代英語では whoever が一般的。

問4 正解: ② Whatever

you choose to major in()という構造で、空欄はmajor inの目的語(もの)が欠けている。複合関係代名詞whatever「～するものは何でも」が、譲歩の副詞節(～が何であれ)を導く。whoeverは人を表すため、専攻という「もの」には使えない。

問5 正解: ① whoever

you think(挿入節)を除いて考えると、()would enjoy this kind of musicという構造になり、空欄は動詞wouldの主語(主格)が必要。複合関係代名詞whoeverが「～する人は誰でも」という意味でinviteの目的語となる名詞節を作る。関係代名詞の基礎で学んだ格(主格・目的格)の判別がここでも重要になる。

復習チェックリスト

- ☐ whoever等が「節内の働き」と「文全体の働き」の二重構造を持つことを説明できるか？
- ☐ 名詞節と譲歩の副詞節を文脈で見分けられるか？

品詞連関図

品詞の働き（統語機能）における位置づけ

- NP（名詞相当語句） — S・O・C・前置詞の目的語になる
不定詞〈名詞用法〉／動名詞〈基本用法〉／動名詞の慣用表現 他3項目
- AdjP（形容詞相当語句） — 名詞を修飾（限定用法） ★
 - 不定詞〈形容詞用法〉（第8講）
 - 現在分詞・過去分詞（名詞修飾）（第17講）
 - 関係代名詞〈基礎〉（第23講）
 - ★ 複合関係代名詞（第24講） 今ここ
 - 連鎖関係代名詞節（第25講）
 - 前置詞+関係代名詞／関係副詞（第26講）
 - 関係詞の非制限用法（第27講）
 - 関係詞の言い換え（第28講）
- AdvP（副詞相当語句） — 動詞・形容詞・文全体を修飾
不定詞〈副詞用法〉／不定詞の結果用法／分詞構文 他7項目
- VP（動詞句の体系） — 時制・態・法
be to do（未来・予定）／未来表現／現在完了形 他7項目
- POS（品詞基礎） — 文を構成する基本単位
名詞／代名詞／冠詞 他3項目
- SPECIAL（統語操作・個別語法） — 特定の構文・動詞に紐づく運用規則
文型体系そのもの／知覚・使役動詞のSVOC／動名詞／不定詞（目的語選択） 他11項目

第25講 連鎖関係代名詞節と〈名詞＋前置詞＋whom/which to do〉

品詞マップ: 形容詞相当語句(先行詞の名詞にかかる)

1. 連鎖関係代名詞節の基本構造

関係代名詞の直後に「I think」「we believe」のようなく判断する主体を示すSVを挿入した形を連鎖関係代名詞節と呼ぶ。

(1) the applicant who is qualified「資格のある応募者」

(2) the applicant who I believe is qualified「資格があると私が考える応募者」

⇒ I believe を who の直後に加えることで「私の考えでは」というニュアンスが加わる。

*主格の関係代名詞は連鎖関係代名詞節では省略可能。(2)のwhoを省略した the applicant I believe is qualified も自然な英語。

2. 〈名詞＋前置詞＋whom/which to do〉の変形理解

(例) I need a mentor with whom to discuss my career.

「キャリアについて相談する(ための)メンターが必要だ」

I discuss my career with a mentor. (文)

→ a mentor with whom I discuss my career (関係詞節)

→ a mentor with whom to discuss my career

*I discuss が to discuss に変わったと考える。

3. 実戦演習問題

問1 She is the only candidate () we believe has the experience necessary for this position.

- ① who
- ② whom
- ③ whose
- ④ which

問2 She is the kind of person () opinions everyone in the office respects.

- ① who
- ② whom
- ③ whose
- ④ which

問3 The witness () the police suspect is lying will be questioned again tomorrow.

- ① who
- ② whom
- ③ whose
- ④ which

問4 He is a person () to discuss important matters is often difficult.

- ① who
- ② which
- ③ whom
- ④ that

問5 He is looking for a lawyer () whom to consult about the contract dispute.

- ① at
- ② with
- ③ of
- ④ by

4. 解答と構造解説 & 講義注釈

品詞マップ: 形容詞相当語句(先行詞の名詞にかかる)

問1 正解: ① who

we believe が連鎖して挿入された形。節内では has の主語となるため主格の who が正しい(連鎖関係代名詞節でも whom にはならない)。

問2 正解: ③ whose

the kind of personの「意見 (opinions)」という所有関係を表す所有格の関係代名詞 whoseが正解。whose opinionsで一つのまとまりとなり、その後ろにeveryone respects (他動詞respectの目的語が欠けた不完全文)が続く、連鎖関係代名詞節に近い構造。

問3 正解: ① who

the police suspect が連鎖して挿入。節内では is lying の主語となるため主格の who が正しい。

問4 正解: ③ whom

〈名詞＋前置詞＋whom to do〉の連鎖パターン(discuss with whom to do... ではなく、ここではto discuss important matters with が本来の形で、withの目的語がwhomとして前に出た構造)。人を表す先行詞personを受け、前置詞の目的語になる目的格の関係代名詞whomが正解。

問5 正解: ② with

consult about the contract dispute with a lawyer(弁護士と相談する)という元の文から、with が前置詞として残る。a lawyer with whom to consult という形。

復習チェックリスト

- ☐ 連鎖関係代名詞節が「判断する主体」を加えて記述の責任を明確にする働きを説明できるか？
- ☐ 〈名詞＋前置詞＋whom/which to do〉の変形プロセスを再現できるか？

品詞連関図

品詞の働き（統語機能）における位置づけ

- NP（名詞相当語句） — S・O・C・前置詞の目的語になる
不定詞〈名詞用法〉／動名詞〈基本用法〉／動名詞の慣用表現 他3項目
- **AdjP（形容詞相当語句） — 名詞を修飾（限定用法） ★**
 - ・ 不定詞〈形容詞用法〉（第8講）
 - ・ 現在分詞・過去分詞（名詞修飾）（第17講）
 - ・ 関係代名詞〈基礎〉（第23講）
 - ・ 複合関係代名詞（第24講）
 - ★ **連鎖関係代名詞節（第25講）** **今ここ**
 - ・ 前置詞＋関係代名詞／関係副詞（第26講）
 - ・ 関係詞の非制限用法（第27講）
 - ・ 関係詞の言い換え（第28講）
- AdvP（副詞相当語句） — 動詞・形容詞・文全体を修飾
不定詞〈副詞用法〉／不定詞の結果用法／分詞構文 他7項目
- VP（動詞句の体系） — 時制・態・法
be to do（未来・予定）／未来表現／現在完了形 他7項目
- POS（品詞基礎） — 文を構成する基本単位
名詞／代名詞／冠詞 他3項目
- SPECIAL（統語操作・個別語法） — 特定の構文・動詞に紐づく運用規則
文型体系そのもの／知覚・使役動詞のSVOC／動名詞／不定詞（目的語選択） 他11項目

第26講 前置詞＋関係代名詞と関係副詞(Preposition + Relative Pronoun; Relative Adverbs)

品詞マップ: 形容詞相当語句(先行詞の名詞にかかる)

1. 先行詞が前置詞の目的語になっている場合の2つの表現

先行詞が関係代名詞節の中で前置詞の目的語になっている場合、前置詞は関係代名詞の直前に置くか、文末に残すかの2通りの位置がある。

This is the house in which I was born. (フォーマル)

This is the house which I was born in. (前置詞を後ろに残す)

*that を使う場合は前置詞を必ず後ろに残す(that の直前に前置詞は置けない)。

2. 関係副詞

先行詞(場所・時・理由・方法)＋〈前置詞＋関係代名詞〉は、1語の関係副詞(where, when, why, how)に置き換えられる。

先行詞の種類	関係副詞	対応する〈前置詞＋関係代名詞〉
場所	where	in/at/on which
時	when	in/at/on which
理由	why	for which
方法	how	in which (先行詞the wayと同時使用不可)

関係副詞の後ろには、名詞要素の欠落がない「完全な文」が続く(関係代名詞との最大の違い)。

This is the house where I was born.

where I was born は完全文(in which を1語に圧縮したもの)

3. 実戦演習問題

問1 This is the hotel () we stayed during our trip to Kyoto.

- ① which
- ② where
- ③ who
- ④ whom

問2 I still remember the day () we first met at the conference.

- ① which
- ② when
- ③ where
- ④ who

問3 That is the reason () she decided to change her career.

- ① why
- ② where
- ③ which
- ④ when

問4 This is the reason () I decided to change my career path.

- ① which
- ② why
- ③ what
- ④ who

問5 I still remember the day () which we first arrived in this country.

- ① at
- ② on
- ③ in
- ④ to

4. 解答と構造解説&講義注釈

品詞マップ: 形容詞相当語句(先行詞の名詞にかかる)

問1 正解: ② where

先行詞 the hotel(場所) + we stayed(完全文)という構造。at which に相当する関係副詞 where が正しい。

問2 正解: ② when

先行詞 the day(時) + we first met at the conference(完全文)。on which に相当する関係副詞 when が正しい。

問3 正解: ① why

先行詞 the reason(理由) + she decided to change her career(完全文)。for which に相当する関係副詞 why が正しい。

問4 正解: ② why

先行詞 the reasonを受け、後ろのI decided to change my career pathが完全文であることから、関係副詞whyが正解(=the reason for which)。関係代名詞the reason which/thatとも書き換え可能だが、whyは理由の先行詞と結びつく代表的な関係副詞として押さえておく。

問5 正解: ② on

先行詞 the day(特定の日)を修飾する〈前置詞+関係代名詞〉の形。on that day(その日に)という副詞句に対応するため、前置詞onが正解。on which=whenと書き換えられる、関係副詞との対応関係を意識する。

復習チェックリスト

- ☐ 前置詞＋関係代名詞の2つの語順(前置＋後置)を説明できるか？
- ☐ 関係副詞(where/when/why/how)が対応する〈前置詞＋関係代名詞〉を言えるか？
- ☐ 関係副詞の後ろは完全文になることを説明できるか？

品詞連関図

品詞の働き(統語機能)における位置づけ

- └ NP (名詞相当語句) — S・O・C・前置詞の目的語になる
不定詞〈名詞用法〉／動名詞〈基本用法〉／動名詞の慣用表現 他3項目
- └ AdjP (形容詞相当語句) — 名詞を修飾(限定用法) ★
 - ・不定詞〈形容詞用法〉(第8講)
 - ・現在分詞・過去分詞(名詞修飾)(第17講)
 - ・関係代名詞〈基礎〉(第23講)
 - ・複合関係代名詞(第24講)
 - ・連鎖関係代名詞節(第25講)
 - ★ 前置詞＋関係代名詞／関係副詞(第26講) 今ここ
 - ・関係詞の非制限用法(第27講)
 - ・関係詞の言い換え(第28講)
- └ AdvP (副詞相当語句) — 動詞・形容詞・文全体を修飾
不定詞〈副詞用法〉／不定詞の結果用法／分詞構文 他7項目
- └ VP (動詞句の体系) — 時制・態・法
be to do (未来・予定)／未来表現／現在完了形 他7項目
- └ POS (品詞基礎) — 文を構成する基本単位
名詞／代名詞／冠詞 他3項目
- └ SPECIAL (統語操作・個別語法) — 特定の構文・動詞に紐づく運用規則
文型体系そのもの／知覚・使役動詞のSVOC／動名詞／不定詞(目的語選択) 他11項目

第27講 関係詞の非制限用法と訳し方(Non-restrictive Relative Clauses)

品詞マップ: 形容詞相当語句(先行詞に補足説明を加える)

1. 関係詞の非制限用法とは

関係詞の前にコンマをつけて、先行詞を補足的に説明する用法を「非制限用法」と呼ぶ。

- (1) 非制限用法で用いる関係代名詞は、who, whom, whose, which, 前置詞＋whom, 前置詞＋which のみ。関係代名詞 that, what は非制限用法では使えない。
- (2) 目的格の関係代名詞 (whom, which) は、非制限用法では省略できない。
- (3) 非制限用法で用いる関係副詞は where, when のみ。関係副詞 why, how は非制限用法では使えない。

My uncle, who has lived in Canada for over twenty years, still speaks with a slight accent.

(私のおじは、20年以上カナダに住んでいるが、いまだに少しなまりがある)

2. 制限用法の訳し上げと、非制限用法の訳し下し

関係詞の制限用法は、「関係詞節→先行詞」の順番で訳す(＝訳し上げ)。

the client who runs a bakery downtown「街中でパン屋を営んでいる客」

一方、非制限用法は、「先行詞→関係詞節」の順番で訳すのが原則(＝訳し下し)。

Mr. Sato, who runs a bakery downtown, comes to our shop every Friday.

「佐藤さんは、街中でパン屋を営んでいるのだが、毎週金曜日に私たちの店に来る」

ところが、固有名詞が先行詞の場合、たとえ訳し上げの日本語で出題されていても、英作文の際は非制限用法を用いる(＝コンマを打つ)ことにくれぐれも注意すること。「フランス語を学んだ田中さん」という訳し上げの日本語であっても、Mr. Tanaka のような固有名詞が先行詞の場合は Mr. Tanaka, who learned French, ... のようにコンマを打つのが正しい。

3. 実戦演習問題

問1 The new policy, () many employees strongly opposed, was implemented last week.

- ① that
- ② which
- ③ who
- ④ what

問2 My brother, () just returned from studying abroad, speaks three languages fluently.

- ① that
- ② who
- ③ whose
- ④ which

問3 My grandfather, () worked as an engineer for forty years, taught me how to fix almost anything.

- ① that
- ② who
- ③ what
- ④ whose

問4 次の日本語を最も自然な英文にする際、正しいのはどちらか。「宮沢賢治が書いた『銀河鉄道の夜』は、今でも多くの人に愛されている」

① Night on the Galactic Railroad, that was written by Kenji Miyazawa, is still loved by many people. ② Night on the Galactic Railroad, which was written by Kenji Miyazawa, is still loved by many people.

問5 The two paintings, () I bought at a small gallery in Kyoto, now hang in my living room.

- ① that
- ② which
- ③ what
- ④ why

4. 解答と構造解説 & 講義注釈

品詞マップ: 形容詞相当語句(先行詞に補足説明を加える)

問1 正解: ② which

先行詞the new policy(もの)の後ろにカンマがあるため非制限用法の関係代名詞 whichが正解。非制限用法ではthatは使用できない。カンマの前後で「先行詞を限定するか、補足説明を加えるか」という意味の違いも確認しておくこと。

問2 正解: ② who

固有名詞的な先行詞My brother(特定の一人)の後ろにカンマがあるため、非制限用法の関係代名詞who が正解。非制限用法では接続詞thatは使えない点が最重要の識別ポイント。カンマの有無で制限用法・非制限用法を見分ける。

問3 正解: ② who

非制限用法(コンマあり)で使える関係代名詞は who, whom, whose, which のみ。that は非制限用法では使えないため who が正解。

問4 正解: ② which

Kenji Miyazawa という固有名詞は先行詞ではないが、Night on the Galactic Railroad という作品名(固有名詞に準ずる特定の1つのもの)が先行詞。固有名詞的な先行詞には非制限用法(コンマ+which)を用いる。that は非制限用法で使えないため①は誤り。

問5 正解: ② which

非制限用法(コンマあり)なので that は使えない。目的格の関係代名詞であり、省略もできないため which が正解。

復習チェックリスト

- ☐ 非制限用法で使える関係詞と使えない関係詞(that, what, why, how)を区別できるか？
- ☐ 制限用法(訳し上げ)と非制限用法(訳し下し)の違いを説明できるか？
- ☐ 固有名詞が先行詞の場合、英作文では常に非制限用法を用いることを覚えているか？

品詞連関図

品詞の働き(統語機能)における位置づけ

- └ NP (名詞相当語句) — S・O・C・前置詞の目的語になる
不定詞〈名詞用法〉／動名詞〈基本用法〉／動名詞の慣用表現 他3項目
- └ **AdjP (形容詞相当語句) — 名詞を修飾(限定用法) ★**
 - ・不定詞〈形容詞用法〉(第8講)
 - ・現在分詞・過去分詞(名詞修飾)(第17講)
 - ・関係代名詞〈基礎〉(第23講)
 - ・複合関係代名詞(第24講)
 - ・連鎖関係代名詞節(第25講)
 - ・前置詞+関係代名詞／関係副詞(第26講)
 - ★ **関係詞の非制限用法(第27講)** **今ここ**
 - ・関係詞の言い換え(第28講)
- └ AdvP (副詞相当語句) — 動詞・形容詞・文全体を修飾
不定詞〈副詞用法〉／不定詞の結果用法／分詞構文 他7項目
- └ VP (動詞句の体系) — 時制・態・法
be to do (未来・予定)／未来表現／現在完了形 他7項目
- └ POS (品詞基礎) — 文を構成する基本単位
名詞／代名詞／冠詞 他3項目
- └ SPECIAL (統語操作・個別語法) — 特定の構文・動詞に紐づく運用規則
文型体系そのもの／知覚・使役動詞のSVOC／動名詞/不定詞(目的語選択) 他11項目

第28講 関係詞の言い換え表現(the way／the reason)

品詞マップ: 形容詞相当語句(先行詞の名詞にかかる)

1. 「...するやり方／...する様子」の表し方

同じ内容を3通りの形で表せる。

(1) how SV

I still remember how she solved the problem so quickly.

(彼女がどうやってその問題をあれほど早く解いたか、今でも覚えている)

(2) the way SV

I admire the way she handles difficult customers with such patience.

(あの忍耐強さで難しい顧客に対応する彼女のやり方に感心する)

(3) the way in which SV: 関係副詞の代わりに〈前置詞 in+which〉を用いた表現

The way in which he explained the theory made it easy to understand.

(彼がその理論を説明したやり方のおかげで、理解しやすくなった)

注意: the way と関係副詞 how を一緒に用いて(×) the way how SV という表現はできない。注意: the way that SV という表現もある。この that は関係副詞の一種と理解すればよい。

2. 「それが...する理由だ／そういうわけで...」の表し方

前の文で理由を述べて、その結果を述べる表現。同じ内容を3通りの形で表せる。

(1) That is the reason why SV

He never apologized. That is the reason why she still refuses to talk to him.

(彼は一度も謝らなかった。それが、彼女が今も彼と話すのを拒む理由だ)

(2) That is why SV * 先行詞 the reason を省略した表現

Traffic was heavier than usual this morning. That is why I arrived late for the meeting.

(今朝はいつもより渋滞がひどかった。そういうわけで会議に遅れた)

(3) That is the reason SV * 関係副詞 why を省略した表現

Prices have risen sharply this year. That is the reason many families are cutting back on spending.

(今年は物価が急激に上昇した。それが、多くの家庭が支出を削っている理由だ)

*注意: That の代わりに This / It を用いる場合もある。

3. 実戦演習問題

問1 He forgot to submit the report on time. () his supervisor asked him to stay late.

- ① That is why
- ② That is reason why
- ③ This is the way
- ④ It is because

問2 No one can fully copy () she combines colors in her paintings.

- ① what way
- ② the way in that
- ③ the way in which
- ④ how the way

問3 Please tell me () you managed to solve such a difficult problem so quickly.

- ① the way that
- ② the way how
- ③ the way in which
- ④ ①と③の両方

問4 Nobody knows the exact reason () the ancient civilization suddenly disappeared.

- ① how
- ② why
- ③ which
- ④ when

問5 I was impressed by () the new manager explained the complicated plan so clearly.

- ① how
- ② the way how
- ③ what
- ④ which

4. 解答と構造解説 & 講義注釈

品詞マップ: 形容詞相当語句(先行詞の名詞にかかる)

問1 正解: ① That is why

前文の内容(報告書を提出し忘れた)を理由として、その結果(上司に居残りを頼まれた)を述べる文脈。That is the reason why の the reason を省略した That is why が正しい。

問2 正解: ③ the way in which

関係副詞の代わりに<前置詞 in + which>を用いた形。the way in that という表現は存在しない。

問3 正解: ④ ①と③の両方

the way(方法)を先行詞とする場合、the way that または the way in which の形は可能だが、the way how と howを重ねて使うことはできない(the wayとhowはどちらか一方のみ)という関係詞の言い換え表現のルール。

問4 正解: ② why

先行詞the reasonを受ける関係副詞はwhy(=for which)。the reason how という組み合わせは存在しない点に注意(howはthe wayと結びつく)。先行詞と関係副詞の正しい組み合わせ(time-when, place-where, reason-why, way-how)を押さえる。

問5 正解: ① how

be impressed by の目的語となる名詞節。the way howという形は不可なので、howのみを用いた形が正しい。

復習チェックリスト

□ 「...するやり方」を表す3つの表現を言えるか？

□ 「そういうわけで...」を表す3つの表現の省略関係を説明できるか？

品詞連関図

品詞の働き（統語機能）における位置づけ

- └ NP（名詞相当語句） — S・O・C・前置詞の目的語になる
不定詞〈名詞用法〉／動名詞〈基本用法〉／動名詞の慣用表現 他3項目
- └ **AdjP（形容詞相当語句） — 名詞を修飾（限定用法） ★**
 - ・ 不定詞〈形容詞用法〉（第8講）
 - ・ 現在分詞・過去分詞（名詞修飾）（第17講）
 - ・ 関係代名詞〈基礎〉（第23講）
 - ・ 複合関係代名詞（第24講）
 - ・ 連鎖関係代名詞節（第25講）
 - ・ 前置詞+関係代名詞／関係副詞（第26講）
 - ・ 関係詞の非制限用法（第27講）**★ 関係詞の言い換え（第28講） 今ここ**
- └ AdvP（副詞相当語句） — 動詞・形容詞・文全体を修飾
不定詞〈副詞用法〉／不定詞の結果用法／分詞構文 他7項目
- └ VP（動詞句の体系） — 時制・態・法
be to do（未来・予定）／未来表現／現在完了形 他7項目
- └ POS（品詞基礎） — 文を構成する基本単位
名詞／代名詞／冠詞 他3項目
- └ SPECIAL（統語操作・個別語法） — 特定の構文・動詞に紐づく運用規則
文型体系そのもの／知覚・使役動詞のSVOC／動名詞／不定詞（目的語選択） 他11項目

続きは完全版で

無料抜粋版はここまでです。

完全版には、5文型・準動詞・名詞節・副詞節・時制・仮定法・比較・
特殊構文・動詞の語法まで、全54講を収録しています。

完全版『体系基礎英文法 総復習テキスト』

全54講 2,980円(税込)

無料体験・講座のお申し込み

英検1級・TOEIC対策オンライン個別指導

<https://www.eiken-toEIC-toefl.com/>